

大森地区優秀作文



持続可能な社会

大田区立大森第四中学校 三年 大竹 晃生

SDGs(持続可能な開発目標)がここ数年、世界を賑わせている。SDGsは二十五年に国連総会にて採択された持続可能な社会を目指す十七の目標からなっている。目標は二十二十三年を達成すべきとされている。現在おおよそ半分の期間が過ぎ、残すところあと六年だ。アメリカの持続可能な開発ソリューション・ネットワークによる二十二十三年SDGs達成度ランキングで日本は百六十六か国三十一位だった。二十十七年度の十一位をピークに徐々に順位を落とし、最も順位が低い年となってしまった。

十七目標については、三つの目標を達成しており、残る課題は十四目標だ。課題は山積みだが、希望もある。十七番目の目標、「パートナーシップで目標を達成しよう」については二十二十二年度は最も評価の低い深刻な課題から一段階改善し重要な課題となった。

それぞれの目標には細かいターゲットが設定されている。私は七番目に紐づけられた「課税及び徴税能力向上のため、発展途上国への国際的な支援などを通して、国内資源の動員を強化する」に注目した。日本に暮らす私にとって課税や徴税は当たり前のことで、税金が上下水道・鉄

道・道路などの社会インフラから教育・医療の整備に使用されることに疑問を持つことはなかった。

小学生の頃、東京に大きな地震があった。二十三時過ぎの出来事で帰宅が困難になる人もいたが、大きな被害や混乱はなかった。当時の出来事で強く印象に残っていることが東京都内で二十三箇所の水道管破裂・漏水した出来事だ。当日夜は破裂した水道管から道路に水があふれる映像が何度も報道され、設備の老朽化などの問題が指摘されていたが、翌日の朝六時にはすべての水道管の修理が完了していたのだ。私は、日本人の社会インフラを重視する感覚が感じられたようでうれしかった。

日本は戦後、経済的に急成長を遂げ、かつてはアメリカに次ぐ経済大国となったが、現在は少子化や新型コロナウイルスの影響があり、伸び悩んでいる。さらには各家庭の所得格差が過去最大となったというネットニュースの記事を見た。新型コロナウイルスへの対応が緩和されて、人々の活動が本格的になると、そこには新たな格差や世代間の分断が生まれやすくなっていく。

今こそ税金を通して人々にお金の再分配を行う必要がある。老朽化した社会インフラの再整備や高齢者、子供、障害者に対する社会保障制度充実を図るべきだ。税金は皆が使うものに使ってこそ、本当に価値がある使い方だ。それらは貧困に苦しむ人々を助けることになり、戦後社会からの復興を果たした時と同じように日本をもう一度強い国へと成長させることにつながると思う。